

コラム

「エネルギー・ニュースの少なかった09年」

客員研究員 新井 光雄\*

今年も余すところ多少となった。何が今年にあったのか、来年のことを漠然と考えながら一年を回顧する時期だ。新聞でも10大ニュースを始めているところがあり、世界と日本であった事件・事故を掲載して読者に選択を求めている。エネルギー専門雑誌ではエネルギー問題を中心に関係者にアンケート調査をしているところもある。目下はそうした時期なのだろう。個人的にも生活10大ニュースを考えてみたりする。あわただしいなかだが、必要な作業なのだろうと思う。

さて今年は何がエネルギー関連では大きな出来事だったのだろう。新聞（読売新聞12月2日付け）には二面をつぶして「あなたが選ぶ10大ニュース」を掲載している。読者にこんなことが今年にはありましたと例を示して応募してもらおうというもの。恒例となっていて、新聞社がこんなところが妥当というニュースが並ぶ。世界のニュースが50件、国内ニュースが58件ある。読者によって、これが足りない、これはいらぬ、といったこともなくはないのだろうが、忘れていた事件・事故が彷彿と思い出されて興味深い。で問題はエネルギー問題となるが、幸か不幸かほぼゼロ。今年、相対的にエネルギー問題は余り大きなニュースがなかったということになるようだ。ニュースになどならない方が原則は問題なしでいいことなのだが、関わるものとしては少し淋しくなるところなしとしない。これはジャーナリストの業ともいべきものだろう。

それでも首をかしげざるを得ないのは「マイナス25%」がニュースに入っていないこと。これは新聞社がどう判断したのか知ってみたいところだ。環境、環境と騒いでいながらこの脱落は間違いではないか。冗談めかしていえば全地球的な課題に直結するニュースということだってできる。もっともこれはCOP15の結果との関連があるから、模様眺めと判断したのかもしれない。ということで、あつていいはずの「マイナス25%」がないので、今年一般的にはエネルギー問題は穏やかだったということになる。

さはさりながら、問題がなかったはずがない。エネルギー専門誌「エネルギーフォーラム」（12月号）では「需要激減、温暖化対策に困惑した09年エネルギー業界」という特集座談会が展開され、エネルギー関連企業の広報部長などに「エネルギー産業にとっての今年の5大ニュース」（11月6日時点）を聞いている。これでようやく今年のエネルギー関連ニュースの回顧が可能だ。もっともこれも誰もが納得するような重大なニュースは見当たらない。広報部長が1位としているのも、それもあつてだろう、ばらばらで回答に困惑した感じがにじみでている。20社が回答しているのだが、5社が「マイナス25%」とその関連で回答しているのが目立つ程度。5社でもこれを1位としたのは一応納得だが、それもエネルギー産業の共通認識がこれだけ低いのだから新聞社が見送ったのも当然なのかもしれないとも思えてくる。しかし、エネルギー各社の回答を見るとちょっとがっかりするような回答が少なくない。

\* 地球産業文化研究所理事 元読売新聞編集委員

雑誌社の問いは「エネルギー産業にとっての今年の5大ニュース」である。それがどうして「新社長の下で、新経営体制スタート」が1位になるのだろうか。これは社内事情ではあってもエネルギー産業にはほぼ関わりのないことではないのだろうか。「中期ビジョンの発表」なども同様で、これも社内10大ニュースかもしれないが、「産業」にはほとんど関係ないことであり、これを1位とする感覚が理解できない。エネルギー問題は自社が代表しているという気概を示した回答なのかもしれないが、それは裸の王様というものではないのだろうか。全ての回答がそうだとはいわないが地域意識、自社意識の強さに驚き、巨視的視点の欠如というほかないと思えた。

それでも5位まであるので、100の回答があるから、ニュースもなくはない。アトランダムに10を個人的に選ぶとすると、以下のとおりになる。順不同で、①マイナス25%②プルサーマル実施③サハリンII導入開始④太陽光余剰電力の固定価格買取⑤新日石、新日鉱の統合合意⑥暫定税率・高速無料化問題⑦柏崎・刈羽原子力一部運転再開——ここまで来てちょっと選択が難しくなってきた。エネルギー関連の人の誰もが一応納得、と想像するとこの範囲あたりがいいところなのだろう。やはり今後の影響を考えると「マイナス25%」が今年のエネルギー関連ニュースの最大級に落ち着くように思える。業界の視点もあるだろうから、その視点からの1位は納得だが、自社ニュースをエネルギー産業のニュースとする感覚だけではどうにもいただけない。広報担当は自社宣伝だけではないはず。エネルギー問題という幅の広い視野が必要ではないか。

話が思わぬ方向に流れ出してしまったが、エネルギー関連の大きなニュースが今年はなかった。多分、それは潜行しているということなのだろう。そこで個人的に付け加えると重大ではないかもしれないが、IEEA事務局長に日本人が就任した。大きな国際的なエネルギー関連組織のトップにIEEAを含めて日本人が2人となった。これもどこかに顔を出してもよかったかと思うのだが、少し個人的な思い込みに過ぎるのかもしれない。不謹慎を承知で言えば、来年はいい意味でエネルギーの大きなニュースがあればと思っている。不謹慎としたのは、ニュースはいいことが少ないからである。

お問い合わせ：[report@tky.ieej.or.jp](mailto:report@tky.ieej.or.jp)